

2026 年度 サムエル組 3 歳児クラス 日案

時間	子どもの生活	保育者の援助・配慮	備考
7 : 00	順次登園	○保育室の換気・安全・清潔を点検し受け入れの準備をする。 ○子どもが好きなことをして遊べる環境を整える。 ○にこやかに朝のあいさつを交わし、子どもの健康状態や機嫌をよく見て、子どもがしたくをし終えるのを待つ。 ○異常を見出したときは、適切に対処する（特に体調不良・目の充血・外傷 など）。 ○異年齢児がいっしょに過ごす時間なので、互いにかかわりが持てるように過ごす。 ○子どもが落ち着いて遊べる玩具を準備し保育者にかかわられながら安心して遊べるように環境づくりをする。	●異年齢の遊びを予測する。 ●出勤体制が整うまで合同の保育となる。
平常 9 : 00	遊び	○順次登園してくる子どもの受け入れや保護者対応が必要な時間なので保育者の体制に留意し、安全に配慮しながら遊ぶ。 ○水分補給のお茶がいつでも飲めるように用意しておく。	●保護者に直接ようすを尋ねる。 ●保護者から担任への伝達などを聞き取る。 ●子どもの遊びの発達段階を考慮して玩具をそろえる。 ●遊びの展開を変える。
9 : 30	先生方のお礼拝	○先生たちがお礼拝をしている間、おもちゃで遊ぶ。先生たちのお礼拝後、お片付けして子どもの礼拝の準備をする	●保育者間の連携が重要。
9 : 50	子どものお礼拝	○季節に合わせて衣服の調節が自分でできるように、働きかける。	
10 : 00	排せつ、水分補給	○子どものお礼拝後、水分補給をしてトイレにも行く。	●必要な物の準備は事前に保護者に伝える。
10 : 05	朝の会	○朝の会で、今日の予定を聞く	●そのつどいねいに手順や方法を教え、事後確認を行なう。
	設定保育	○今日の、設定保育をする	
	かたづけ	○決まった場所に数を数えながら、汚れた玩具を洗ってかたづける。しだいに自発的に行なえるよう毎日繰り返す。	●保育者もいっしょにかたづけながら、わかりやすいかたづけ方を工夫する。
11 : 15	手洗い 排せつ	○手洗いや足洗い、排せつがきちんとできるか見守り、できてないところは援助し、自分でできるよう気づかせていく。	
	昼食の準備	○子どもの日課を援助する保育者と、先に昼食の準備に当たる保育者に分かれ、子どもが自主的に食事の準備ができるように援助する。 ○配ぜんの用意をする。 ○準備ができるまで、手遊び・なぞなぞ・言葉遊びをして待ち、落ち着いて楽しく食事ができるようにする。	●テーブルを出す。 配ぜん台を出す。 消毒液につけた台ふきを用意。
	食事	○食事中、友達と会話しながらも食事に集中できるように適度に介入し、マナーの大切さを知らせていく。	●アレルギー食への配慮。
11 : 40	歯みがき	○歯みがき指導を導入して、しっかり自分でできるように見守る。また、必要なときはしあげをする。	●歯ブラシが広がっていないか確認する。しあげの方法等は保護者に方法を教えて、連携していく。
	着替える	○着脱はほぼ自分でできるが、依存する子どもには援助しながら励ましてできることはひとりでやってみようとする気持ちへと導く。	
	静かに遊ぶ (排せつ)	○午睡までの間、子どもが食後落ち着いて遊べるような環境を整える。 ○食後に排便をもよおした子どもの便性を確認し、保育者がふく。 ○室温・換気・寝具の調整に配慮し、午睡のための環境をつくる。	●パズル・ブロック・モザイク遊び・人形ごっこ など。

2026 年度 サムエル組 3 歳児クラス 日案

時間	子どもの生活	保育者の援助・配慮	備考
13 : 00	午睡		
	目覚める		●記録書き、教材づくり、クラスミーティング。
	着替える	○落ち着いて眠れるように、読み聞かせ・ストーリーテリングなどで雰囲気をつくる。	●寝起きが悪くて、ひとりでしにくいところをやりやすいように援助する。
	排せつ 手洗い	○寝かしつけはほとんどなくてもひとりで眠れるが、添い寝が必要な子どもには付き添い、優しく寝かしつける。	●アレルギー食への配慮。
15 : 00	おやつ 歯みがき 身支度をする	○しぜんな目覚めを誘うため採光を加減する。 ○優しい言葉で心地良く目覚めさせる。 ○自分でしやすいように援助する。 ○眠れない、早く起きたという場合は休息させるように静かに過ごせるように援助する。 ○目覚めたら順次着替えて、おやつのための準備ができるように援助する。	●手遊びなどをして待つ。
	帰りの会に参加する	○きちんと手洗いができるように見守る。 ○食事時間と同じように配慮する。 ○歯みがきを見守り保育者もいっしょに行なう。 ○汚れ物やタオル・コップなど、自分のカバンに入れるよう促す。	●健康状態を良く見る。
16 : 00	順次後園	○徐々に帰りの会に加わるように配慮しながら待つ。 ○明日は何をして遊びたいかなど話し、明日も期待感や意欲を持って登園できるように子どもたちと話し合う。 ○配布物を持って帰ることを子どもに伝える。保護者にも配布物があることを伝える。 ○カバンに確実に入れるのを見届ける。 子どものロッカーなどを点検して、忘れ物や不足物が無いか確認する。 ○夕方の戸外遊びは職員数、異年齢混合などの状況を考慮して、保育の形態を常に柔軟にとらえ、クラスの枠を超えての連携で保育展開するように心がける。 ○けがをしやすい時間帯でもあるので、安全には十分に注意して過ごす。 ○外周りを皆で確かめ、かたづけ忘れなどがないか子どもといっしょに確認して整える。 ○しっかり汚れを落とすよう見守りながらも、さりげない援助を行なう。 ○保護者への伝達をし、忘れ物がないのを見届けて「さようなら」のあいさつを交わし、和やかにお別れする。	●保護者への連絡事項など再確認し、場合によって引継ぎ事項とする（配布物・お迎えの人がいつもと違う・時間を変更している・保育中のけが など）。 ●担任がいるとは限らないので必要なことにおいてはクラスの枠を外してかわれるようにする。
18 : 00	保育終了	○展示食を下げ、明日の受け入れのために保育室を整えて終了する。	●紙芝居・絵本の読み聞かせ。 ●寂しくなったの愛着行動を受容する。 ●「おかえりなさい」のあいさつとともに、直接伝達事項がない場合にも二言三言の会話を交わしコミュニケーションを図る。